

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(7)-ア	まちづくりにおけるユニバーサルデザインの推進	施策	① 公共空間等におけるユニバーサルデザインの導入
			施策の小項目名	—
主な取組	公共交通利用環境改善事業			
対応する主な課題	①高齢者や障害者のためのバリアフリー化にとどまらず、子ども、観光客、外国人なども含め、すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインの考え方を導入した環境づくりが求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
県民や観光客の移動利便性の向上、高齢者や障がい者などのいわゆる交通弱者の移動の確保、中南部都市圏の交通渋滞緩和、低炭素社会の実現を図ることを目的に、公共交通の利用者を増大させるための利用環境の改善を図る。		64% ノンステップバス 導入率	66%	68%	70%	70%
実施主体	県、交通事業者	ノンステップバス導入				
担当部課【連絡先】	企画部交通政策課 【098-866-2045】	IC乗車券の船舶・タクシーへの拡張利用に向けた課	IC乗車券の拡張利用に関する調査・検討・導入支援			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	公共交通利用環境改善事業						R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
	主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	
一括交付金(ソフト)	補助	1,716,593	1,001,848	535,389	228,514	237,552	127,933	一括交付金(ソフト)	OR元年度：ノンステップバス3台、車内案内表示器30台、バスレーン延長等検討調査業務、各種施策の周知広報等を実施。 OR2年度：ノンステップバス1台、車内案内表示器25台、バスレーン延長等検討調査業務、各種施策の周知広報等を実施。

様式1(主な取組)

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画			
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： -			
							-	-	OR2年度： -			
活動指標名		ノンステップバス導入率				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				237,552
活動指標名		-				R元年度						
実績値		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果			
活動指標名		-				R元年度						
実績値		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		ノンステップバスについては、これまでの累計では219台の計画に対し218台を導入しており、概ね計画どおりに進んでいる。 交通弱者を含む全ての利用者の乗降性に優れるノンステップバスの導入により、全ての人が利用しやすい公共交通の環境づくりに寄与している。		
活動指標名		-				R元年度						
実績値		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和元年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none">・ノンステップバス導入後の運用面について、引き続き、バス事業者等とサービス活性化に向けた意見交換を行い、現状や課題等の共通認識を図り、更なるサービスの改善に繋げる。・基幹バスルートの定時・速達性を向上させるため、伊佐～コザ間のバスレーン延長に向けて取り組む。・IC乗車券の拡張については、技術的検討及び他地域事例等の調査を行い、様々な拡張可能性を検討する。	<ul style="list-style-type: none">・ノンステップバス導入後の運用面については、時刻表にノンステップバスでの運行有無を記載できないか、バス事業者と意見交換を行い、現状及び課題等の共通認識を図り、引き続き検討していくこととした。・バスレーンの更なる延長に向け、伊佐～コザ間のシュミレーションを行い、効果分析や区間ごとの課題を抽出した。・IC乗車券の拡張については、沖縄ICカード(株)とOKICAの利便性向上に向けた協議を行った。現在、同社においては、タクシーを含む商業展開について、関係者と具体的に検討を進めているところである。

3 取組の検証 (Check)

(1)推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none">・ノンステップバス導入事業実施にあたっては、多額の自己負担を伴うことから、バス事業者における経営状況を踏まえた車両更新計画を注視する必要がある。	<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none">・ノンステップバス導入事業については、事業実施前の平成23年度の9台から令和元年度末には218台へと増加し、移動利便性の環境整備が進むにつれ、さらに、導入路線を拡大してほしい等利用者からの意見が聞かれるようになった。・IC乗車券の拡張に関しては、OKICAを運用する沖縄ICカード(株)において、タクシーを含む商業展開について、関係者と具体的に検討が進められているなど、環境の変化が見られる。
(2)改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none">・ノンステップバス導入後の運用面について、引き続き、バス事業者等とサービス活性化に向けた意見交換を行い、運用面における現状や課題等の共通認識を図り、更なるサービスの改善に繋げる必要がある。・過度な自家用車利用から公共交通への転換を図るため、基幹バス(那覇～コザ)のサービス水準をより高め、定時・速達性を向上させる施策が必要である。・IC乗車券の拡張については、沖縄ICカード(株)の取組状況について、情報収集を行うとともに、OKICAの利用促進に取り組む必要がある。	

4 取組の改善案 (Action)

<ul style="list-style-type: none">・ノンステップバス導入後の運用面について、引き続き、バス事業者等とサービス活性化に向けた意見交換を行い、現状や課題等の共通認識を図り、更なるサービスの改善に繋げる。・基幹バスルートの定時・速達性を向上させるため、新たなバスレーン延長区間におけるスケジュールの作成が必要である。・IC乗車券の拡張については、沖縄ICカード(株)の取組状況について、情報収集を行うとともに、OKICAの利用促進に取り組む必要がある。
--